

Wish

世界の子どものために

vol.79

2026年4月号



©UNICEF / UNI623516

ユニセフの移動診療センターで、診療・予防接種・栄養サービスを受ける子どもたち（エチオピア）

CONTENTS

2-3 特集1 国際平和ウィーク2025×アフリカデー

4-5 特集2 きっかけは「アフリカ」～生協、ユニセフ、私たちの活動～

6-7 活動ファイル
2025年11月～2026年3月

8 お知らせ



左からミゴロ・ベノアさん、勝間美由紀さん、河崎紀子（兵庫県ユニセフ協会事務局長）、イマニシムエ・サムエルさん、永遠瑠マリーリスさん（ルワンダよりオンライン参加）

特集

EVENT
REPORT

1

世界に目を向けよう

国際平和ウィーク2025 × アフリカデー

9月21日は国連が定めた記念日「国際平和デー」。世界の国々と人々に平和を呼びかけるこの日にあわせて「国際平和ウィーク 2025×アフリカデー」を開催しました。「貧困」「紛争」「自然災害」など厳しい状況で語られるアフリカの国々。日本からは距離が遠いため、豊かな自然、多彩な文化、エネルギッシュな若者たち、といったアフリカの「今」を知る機会がありません。魅力あふれるアフリカを体験し、「平和」を考える「国際平和ウィーク×アフリカデー」の様子をお伝えします。

USIC

ジャンベ体験

大人も子どもも大小さまざまなアフリカの太鼓ジャンベに挑戦。参加者は用意された10基の太鼓の前に、ベノワさんのリズムに合わせて楽しげに音色を響かせました。



アフリカ太鼓 ライブ

伝統楽器の紹介やベノワさん自作の歌、美由紀さんとの軽妙なトーク、力強い太鼓の演奏に、会場は手拍子と笑顔に包まれ、アフリカの熱い鼓動が観客の心と一体になりました。

Profile プロフィール

ミゴロ・ベノワ/ 勝間美由紀さん

ブルキナファンの伝統太鼓奏者

ブルキナファンの伝統音楽家。ジャンベ（太鼓）や木琴など様々な楽器を奏でるマルチプレイヤー。2009年来日以来、各地で演奏活動を行う。妻の美由紀さんと共に、アフリカの文化と音楽を伝える。



イラスト：くすみ堂



TALK

2025 国際理解講座③ 「アフリカを語ろう」

M

和やかなうちに、日常生活や文化、平和への思いが語られました。ブルキナファソでは太鼓は言葉の役割を担い、迷子のお知らせや村の集まりをリズムで伝える文化があります。自分たちで遊びを作り出す子どもたちを大人が地域全体で見守る、温かい絆が今も息づいています。一方、ルワンダはドローンが物資を運び、スマホで交通違反が通知されるデジタル最先端の社会に成長しました。ジェノサイドを経験したマリールイズさんが語る「ルワンダが平和だからこそ自転車の世界大会が開ける」という言葉には、壊れた日常を取り戻すための計り知れない努力があったことが滲み出ています。では日本はどうでしょうか。講座では、平和を「空気のような当たり前のもの」と捉えがちな日本人の危うさ、「地域や家族の中で育まれる絆」の希薄さが指摘されました。ブルキナファソの暮らしに根差す人々の絆や、ルワンダの悲劇を乗り越えてきた経験は、平和な未来を考える貴重なヒントになりました。

Data イベントデータ

国際平和ウィーク2025 × アフリカデー
平和を「体験」できる20日間
日時 2025年9月1日(月)～20日(土)
会場 玉津のつどい場たまろっと
共催 兵庫県ユニセフ協会、
コープこうべ第5地区本部
協力 NPO 法人ひと・コネクト兵庫
後援 兵庫県国際交流協会、JICA 関西、
神戸市教育委員会、神戸市教職員組合

9月1日(月)～20日(土)

国際平和ウィーク写真展

- ・ユニセフ写真展「アフリカの子もたち」
- ・活動紹介パネル展「ルワンダのいまからマリールイズさんの歩み」
- ・公募写真展「私のアフリカ」

9月20日(土)

体験・展示プログラム

- 聴く・語る・平和と未来を考える・トークセッション
- ・2025 国際理解講座③
登壇：ミロゴ・ベノフ&勝間美由紀さん、永遠瑠マリールイズさん、イマニシムエ・サムエルさん
司会：河崎紀子（兵庫県ユニセフ協会事務局長）
アフリカ太鼓ライブ&参加型セッション（ジャンベの音と平和を感じる）
- * 2025 国際理解講座③は、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受けて実施しました
- 体験する：アフリカを楽しむ
- ・ジャンベ（アフリカ太鼓）体験
- ・エチオピアコーヒー焙煎と飲み比べ
- ・アフリカの子もたちの遊び体験
- ・アフリカ料理レシピ紹介
- ・竹細工ワークショップ（マラウイ国旗のライオン柄地図の竹パズル他）
- ・水引細工ワークショップ（アフリカ国々の国旗の色のキーホルダー作成）
- 買う・応援する：つながりを広げる
- ・アフリカマルシェ（コーヒー、紅茶、雑貨など）

参加団体

兵庫県立神戸学園都市高等学校・伊川谷高等学校ボランティア部、ルワンダの教育を考える会、石光商事(株)、せいぼじゃぱん、バオバブ、en with momo、兵庫県立大学学生団体 S&I Club、Future Code 学生部 BYCS

WORKSHOP



水引細工

en with momo ではカラフルなアフリカ国旗色の水引を結びキーホルダーを作成。

竹細工

神戸学園都市・伊川谷高等学校ボランティア部の高校生が作ったアフリカライオン等のパズルやゲームを体験。



とわり 永遠瑠 マリールイズさん

「ルワンダの教育を考える会」理事長

1994年ルワンダ内戦勃発時、3人の子どもと共に難民キャンプに避難した。現在は福島県に居住し、ルワンダの学校建設・運営にあたる。日本各地で、平和・教育の大切さについて講演を行う。



イマニシムエ・サムエルさん

「ルワンダの教育を考える会」理事

永遠瑠マリールイズさんの長男。ルワンダ内戦時、母たちと共に難民キャンプに避難した。現在は、ルワンダと日本つなぐビジネスマンとして活躍中。



きっかけは「アフリカ」

2

生協、ユニセフ、私たちの活動

兵庫県ユニセフ協会



コープこうべと兵庫県ユニセフ協会のあゆみ

出典：日本ユニセフ協会ホームページ「生活協同組合」、兵庫県ユニセフ協会資料より作成

- コープこうべのうごき
- 兵庫県ユニセフ協会のうごき
- 日本ユニセフ協会のうごき
- 社会のうごき

1970年代 ～80年代	■アフリカでは干ばつによる被害が深刻化
1979	■国際児童年。国連からICAに呼びかけ支援を要請
1981	■日本ユニセフ協会「アフリカ飢餓ユニセフ救援募金」を開始
1982	■ICA「バケツ一杯の水を送ろう」キャンペーンを呼びかけ。灘神戸生協（コープこうべ）他、北海道、宮城が募金事務局を委嘱されユニセフ募金活動をスタート
1983～	■ユニセフスタディツアーに生協職員、組合員が参加。（ケニア、モザンビーク、ジンバブエ、ラオス、ベトナム、カンボジア、インド、東ティモールなど）
1984	■組合員への募金呼びかけのため、ユニセフファミリーボックス（紙募金箱）50万個を配布。お年玉募金、ユニセフカード配布を開始
1984～	■バングラデシュ緊急募金（以後、自然災害、人道危機発生時、緊急募金活動を呼びかけている）
1991	■灘神戸生協から「生活協同組合コープこうべ」に名称変更
1995	■阪神淡路大震災発生。ボランティア機運高まる
2002	■コープこうべの支援により、「日本ユニセフ協会兵庫県支部」設立
2002～	■年末のハンド・イン・ハンド募金活動スタート
2003～	■アフリカ学習会開催（流れを汲んで「国際理解講座」として現在も開催）
2003～	■トライやるウィーク（神戸市）受入れ開始
2004～	■ユニーズ（UNIES・学生グループ）活動開始
2006	■兵庫県支部設立5周年記念タンザニアツアー開催
2011	■東日本大震災発生。
2011～	■兵庫県ユニセフ協会（日本ユニセフ協会協定地域組織）へ名称変更
2012	■設立10周年記念ケニア・ルワンダツアー実施
2019	■子どもの権利条約採択30周年（196カ国・地域が採択）
2021～	■コロナ禍をきっかけにオンラインによる活動開始
現在	■年末の「ユニセフ集中募金」活動の他、店舗では年間を通したユニセフ募金活動を実施中 ■子どもの権利を学び、国際理解を深め、ユニセフ活動を知る、講演会、学習会、写真展など開催中

「バケツ一杯の水を送る運動」って？

兵庫県ユニセフ協会は2002年3月6日に日本ユニセフ協会兵庫県支部として設立され、2011年に名称変更し、現在に至っています。

それより以前、国連が世界の協同組合に対してユニセフへの支援を呼びかけたことをご存じでしょうか？

1979年の国際児童年、ユニセフ本部（アメリカ・ニューヨーク）の働きかけに国際協同組合同盟（ICA）が賛同し、加盟する日本生活協同組合連合会（日本生協連）から全国の生協へ協力を呼びかけました。当時、1970年代後半から80年代前半にかけて、アフリカやアジア各地では干ばつによる被害が深刻化し、貧困や飢餓に苦しむ子どもたちの状況が報道されました。国際的な助け合い活動の重要性から1982年に灘神戸生協は生協の中に「ユニセフ募金事務局」を設置し、支援を始めました。

「バケツ一杯の水を送る」お母さんたちの運動は、「水汲み」が子どもたちの一番の重労働であったこと、井戸を掘り、きれいな水があれば、病気を防ぎ、命も救えるという考えからでした。

「アフリカ」をひとつのきっかけに始まった、生協とユニセフのつながりは、もうすぐ50年を迎えます。

「募金事務局」「兵庫県支部」「兵庫県ユニセフ協会」へ、名前は変わり時代は変わっても、「子どもの権利」を真ん中に、世界が抱える課題への理解を深める活動は変わりません。これからもたくさんのご縁と共に地域にユニセフの輪を広げます。

参考 「ぼむぼむ通信」2009年3月13日 日本生協連組合員活動部発行

共生こそ21世紀の時代価値に

1982年当時のアフリカの砂漠に骨と皮となってやせおとろえ、しゃがみこんでいる子どもたちの姿が、昨日のこどように目に焼きついて離れません。（中略）今なお住居や食糧の不足、教育を受けることのできない子どもたちなど、多くの人々が支援の手を必要としています。未来ある子どもたちの命を大切にすることは、人類の存続に不可欠であり、世界中の人々が手をつなぎあって生きていく「共生」こそ、21世紀の時代価値とならなければなりません。

「兵庫支部設立総会資料」2002年3月から抜粋。発起人代表竹本成徳さん



少しでも 力になれば

福谷真知子さん

- ① ルワンダ、ケニア
- ② 「世界の子どもたちは私たちの子どもたち」と、講演で聞いたアフリカの村長さんの言葉を実感しました。ルワンダの会議では国連ユニセフの職員として働く多国籍の女性たちの姿が強く心に残りました。
- ③ 子どもたちの力になれることを少しづつ続けていけたらいいなと思っています。

① ルワンダ、ケニア
② ルワンダはゴミが落ちていなくてきれいで、花壇はキッチリ90度直角に造られ日本人に近い物を感じました。平日なのに若者が町にたくさん居て、老人の姿が少ないのは気になりました。

③ まさか私がアフリカに行くなんて思いもしませんでした。確かに遠かったです。でも、関心があるなら行くべき。百聞は一見にしかずです。相手の表情を見て、生の声を聞く。パソコン画面からは読み取れない感情が伝わります。そして、自ら見たいものに目を向ける。全身で空気を感じ味わう。現地を、足を使って地面

関心が持続 するように

福井康代さん



を歩く。何事にも代え難いものを貰えます。頭に刻み込めます。それからはニュース、書物を読んでもアフリカの空を思い出しながら身近に感じ理解度が高まるような気がします。

- ① タンザニア、ケニア、ルワンダ
- ② おおきい
- ③ 関心を持ち続けられるようになった。アフリカについては、アフリカジャーナリストの大津司郎さんから学んだ「ちがいが、人権ということにつながった大きなターニングポイントだと思っています。

- ① ブルキナファソ
- ② ユニセフ職員のフレンドリーさと適応力
- ③ ユニセフ職員との会話や彼らのふるまいを通して、現地の人たちの伝統や慣習等をリスペクトしたアプローチを知ることができ、自身もそういうことを踏まえて活動したいと思いました。



現地の方へ リスペクトを

利根素子さん

まさに百聞は 一見にしかず

吉川景子さん



Q&A ユニセフツアーに参加して アフリカの魅力って？

ユニセフアフリカツアーなどに参加し、今もボランティアとして活躍中のみなさんから、ひとことメッセージをいただきました。

- ① 行った国 ② 感じたこと ③ 行って変わったこと

- ① セネガル、ルワンダ、ケニア
- ② 首都ダカールはかなり発展している！同じアフリカでも国によって全然違う
- ③ 人と直接出会い、交流することの大切さを改めて実感。ユニセフスタッフをはじめ、現地の人々が子どもたちのために一生懸命働いている姿を見て、私もそんな人たちと一緒に働いてみたいと思いました。

アフリカの 思い出

石本 愼子さん



- ① ルワンダ、ケニア
- ② 「ルワンダまでたったの25時間よ。マリールイズさんの言葉通り空港に到着。先ず驚いたのは入国の際にビニール袋がバッグに入っていないかチェックされたこと。持ち込みは禁止。ルワンダでは昔ながらの紙袋が常用されていた。雄大な大地、豊かな自然、日常小さなことでよくよしている自分がつまらなく感じ、やがてゆったりとしたアフリカ時間に慣れていった。マサイ族の素晴らしいジャンプ、大地に沈む真っ赤な夕日、何よりも絶滅危惧種のマウンテンゴリラに会いに行ったこと。どれをとっても毎日が感動

直接出会う ことの大切さ

福井沙織さん



の連続で、今も鮮明に蘇ってくる。後半はウムチヨムイーザスクールで洋裁教室を行った。村のお母さん方、学校の先生10数人(内男性2人)学びたい気持ちがあひしひしと伝わってきた。ミンシンの寄付があり家庭科教室は出来たが、先生がいけないという状況だった。ミンシンが電動だったことも私の驚きの一つで、ミンシンを使えるようになるまでにかかりの時間がかかった。最後はミニアッシュンショール、自分で作ったサンドレスを着てポーズをしている笑顔が忘れられない。民族衣装の布地のイビテンゲ(ibitenge)を買いたくて市場に行った。ここでは日本製の足踏みミンシンが使われていた。かつてベトナムでも同じように日本製の足踏みミンシンが使われていたことを思い出した。いろんな人との出会い、とても貴重な体験をすることが出来た。イベントでルワンダの進歩していくグッズを見るたびに当時を思い出し一人微笑んでいる。皆さんに心より感謝しています。



今まで以上に 知りたい

酒井明子さん



Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴
2025年11月～2026年3月

活動一覽

Activities List

学習会一覽

(0) オンライン開催

月日	訪問先	対象	人数
1月29日	伊丹市立南小学校(0)	6年生	178
2月 5日	加西コープ委員会	大人	14
2月11日	池田東コープ委員会	大人	9
2月26日	福崎町立高岡小学校	5・6年生	12
3月21日	桜が丘コープ委員会(神戸市西区)	大人	10

地域活動一覽

*ブース出展

月日	イベント名	
2月～3月	カレンダー募金	*
2月 5日	ユニセフセミナー①「子どもの権利は社会を変える～子どもの権利基盤アプローチ～」	
3月 7日	第24回ユニセフのつどい	*

募金一覽

2025年11月～2026年1月

学校・団体名
いなみ野祭実行委員会、蘭室友の会(株)甲南エステート、生協運動発展のつどい兵庫、A-BridgeCUP(少年サッカーチーム) ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

FRIENDonation

フレンドネーションとは？

PICK UP



自分のアイディアで、プロジェクトを立ち上げ、応援してくれる方から寄付を集め、世界の子どもたちを支援する新しい支援のカタチ。日本ユニセフ協会が運営しています。兵庫県ユニセフ協会の学生団体ユニセフもアフリカ栄養危機への支援を行おうと挑戦していますので、応援よろしくをお願いします。



2 カレンダー募金

2026年2～3月、今年も文具専門店の伊東屋から寄贈されたカレンダーを「カレンダー募金」として提供し、売上をユニセフ募金にさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

1 第47回(2025年)ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金活動



81人が参加し20万円を超える多額の募金をお預かりしました。ありがとうございました。

日時/場所 11月14日(金)/住吉(神戸)
12月21日(土)/姫路、明石、元町(神戸)、住吉、西宮(2か所)

「すべての子どもに生きる希望を！」をテーマに、年末恒例のハンド・イン・ハンド募金活動を実施しました。ウクライナやガザをはじめ紛争下で多くの子どもたちが命の危機に直面し、深い心の傷に耐えています。子どもたちが明るい未来に希望を持てるようにと、行き交う人に協力をお願いしました。

11月14日はトライやる・ウィークで訪れた中学生たちが募金活動を行い、子どもたちへの支援を呼び掛けました。12月からはネットでも寄付を募り、12月21日には県内6か所で街頭募金活動を行いました。

あいにくの天気にもかかわらず参加くださったボーイスカウト、兵庫県立西脇工業高等学校、神戸大学、甲南女子大学、伊藤ハム(株)、阪神友愛食品(株)、コープこうべのボランティアの皆様をはじめご参加の皆様ありがとうございました。また、会場をお貸しくださった皆様に心よりお礼申し上げます。



3

2026 ユニセフセミナー①

子どもの権利は社会を変える！
～子どもの権利基盤アプローチ



講師 曾我智史さん
 日時 2026年2月5日(木)
 会場 ふれあいひろば コレルせいぶん
 参加者 58人
 共催 神戸市ファミリー・サポート・センター
 後援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、
 コープこうべ第3地区本部

曾我さんはさまざまな自治体の子どもに関する委員会や学校・児童相談所に、法律の知識を持ったソーシャルワーカーとして関わってきました。学校の先生などにはいつも「子ども中心の視点で動いて下さい」とアドバイスしています。

2017年にはNPO法人つなごを設立し、子どもシェルター「こころんハウス」を開設しました。このシェルターは民間の一時保護所として、親などから不適切な養育を受けたり非行行為に及んだりした10代半ばから20歳未満の女子に特化した避難場所を提供しています。シェルターでは一人ひとりに担当弁護士が付き、常駐スタッフが生活支援をしています。児童相談所とも連携しながら親や学校との調整を行い、退所後の生活の準備もし

ます。虐待がひどい、すなわち人権侵害が著しい場合には、親権喪失や停止、未成年後見申立て、裁判などの法的な手続きの支援も行います。シェルターに入るきっかけは、親の過干渉か無関心かが極端であることがほとんどです。入所前の相談段階から子どもとの対話を重視し、法律の枠内で子どもの意思を大切にしながら一緒に最善の道を探っています。

子どもの基本的人権を保障するための子どもの権利条約は、子ども支援をする上で共通の基盤であり、ユニセフの活動の基盤でもあります。この条約には、「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に関する権利」「子どもの意見の尊重」という4つの原則があります。このうち大人が子どもを支援する時に1番大切にすべきなのは「子どもの意見表明権(意見の尊重)」です。支援者は、一人の人間としての子どもが自分で自分の気持ちを表現できるように、サポートしなければなりません。そして表された意見に丁寧に応答し、子どもと一緒に考える義務があります。

相手の話を聞いて理解したことを自分の言葉で繰り返す、双方向の対話をして共感が生まれます。「聞いて聴いて共感する」というプロセスがある環境で、複数の他者(大人)によって意見表明権が保障され、その子どもにとって最も良いことが行われて子どもはよりよく成長していきます。そういう環境を作ることは、人それぞれの自由や権利が守られて幸せに生きることができる社会を作っていくことにもなるのです。

弁護士、社会福祉士
 曾我 智史さん

兵庫県弁護士会子どもの権利委員会委員長、兵庫県弁護士会副会長、兵庫県や大阪府の各地で学校事故調査委員会委員などを歴任。現在大阪市いじめ調査第三者委員会委員長、尼崎市子どものための権利擁護委員会委員長、兵庫県内の児童相談所アドバイザーやスクールロイヤー、NPO法人つなごの理事長などを務めている。

神戸市ファミリー・サポート・センター

「子育ての応援をしてほしい人」と「子育ての応援をしたい人」の出会いをお手伝いしています。詳しくはホームページをご覧ください。



Information

兵庫県ユニセフ協会では
 図書、各種教材の
 貸し出しを行っています

平和、国際協力、子どもの権利など、ユニセフに関する本やリーフレット、パネル等の資料の貸し出しを行っています。ユニセフの活動についてもっと知りたい、広めたい。学習会などで活用をお考えの方は、兵庫県ユニセフ協会事務所で受け付けています。お気軽にお立ち寄りください。

- 受付時間： 平日 10時～16時
- 兵庫県ユニセフ協会 事務所 (TEL 078-435-1605)

お気軽にお立ち寄りください



ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ガザ人道危機	ガザ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ウクライナ	ウクライナ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも
どこでも
気軽に募金

通信欄に兵庫県ユニセフ協会コード
「K1-280」とご記入ください。

ユニセフ兵庫ニュース Wish vol.79

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2026年4月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 2F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

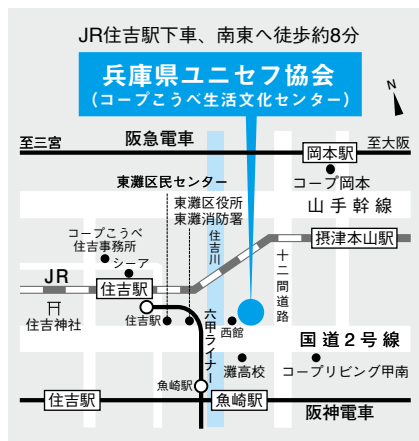
FAX：078-451-9830

E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://unicef-hyogo.jp/>

兵庫 ユニセフ



Join Us 主催イベント

各日程等は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

2026 ユニセフセミナー② 心のインテリジェンスでつながる ～「共に守り合う」子どもの権利 条約と国際人道法の基層～

日時 4月25日(土) 13:30 ~ 15:00
会場 神戸市教育会館
講師 山本真理子さん(国際人権法コンサルタント、医療ジャーナリスト)
定員 80人
後援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区本部



紛争の影響を受けている子どもたちの数は、過去最悪レベル。戦場と生活圏の境界線がなくなり、国際人道法のルール無視や「誤読」が相次ぎます。今こそ、子どもの権利条約や国際人道法の背景・土台・理念を一緒に考えませんか。

2026 ユニセフセミナー③ 子どもの権利と余暇～ユースワーカーが考える幸せに生きる時間～

日時 6月27日(土) 13:30 ~ 15:00
会場 神戸市教育会館
講師 今井直人さん(NPO法人 Dive in 代表理事、ユースワーカー)
定員 80人
後援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区本部



子どもの権利条約第31条は「休み、遊ぶ権利」。しかし今は、自由な時間に自分と向き合える場所がありません。ユースワーカーとして家でも学校でもない第3の場所「ユースセンター」を提唱している今井さんと一緒に、子どもの権利第31条を新たな視点から考えませんか。

2026 国際理解講座① 2025年夏、中東パレスチナのものづくりの現場を訪ねて～ヨルダン川西岸地区に暮らし続けること～

日時 5月30日(土) 13:30 ~ 15:00
会場 神戸市教育会館
講師 高橋智恵さん(ソーシャルブランド架け箸代表)
定員 80人
後援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区本部



中東パレスチナとの出会い、そこにある日常と歴史、西岸地区の住民が直面する日々の現実、困難、フェアトレードでつながること、生産者のこと、何より、最近の状況について。昨年夏も現地を訪れた高橋さんのお話を聴きながら、自分にできることを考えてみませんか。

2026 国際理解講座② ウクライナ戦火の子どもたち、市民はいま(仮)

日時 7月25日(土) 13:30 ~ 15:30
会場 神戸市教育会館
講師 玉本英子さん(アジアプレス所属ジャーナリスト)
定員 80人
後援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区本部



戦闘も5年目に突入。そこで暮らす子どもたちは、遊びや学びの機会を奪われ、脅かされ続けています。現地取材から帰国した玉本さんが戦争の現実を伝えます。写真パネルも展示します。

参加申込みはホームページ上の申込みフォームでも受け付けています。 お問い合わせ TEL 078-435-1605

※国際理解講座①②③は、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金からの助成を受けて実施します。

News お知らせ

9月19日(土)「国際理解講座③アフリカを語る」会場：玉津のつどい場たまるっと

Volunteer
あなたもボランティア!
ボランティア募集中
「できる人が できる時に できることを」をモットーに子どもたちのための活動をしています。一緒にボランティアしませんか。

募集中!

ユニセフ びょうご サポーター 賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支援してください。

日本ユニセフ協会 賛助会員 賛助会費の50%が兵庫県ユニセフ協会の運営・活動費になります。